

教育長の報告に関わって

○修学旅行等について

→県からの要請を受け、行き先は岐阜県内とし、泊を伴わず行う方向で小中学校とも検討中である。単なるレジャーとならず、ねらいが達成できるような修学旅行になればと考えている。新型コロナウイルス感染症の影響により、修学旅行をキャンセルしなければならないことになった場合、町として出している補助金1/3をキャンセル料に充てる方向で考えている。

県内の多くの学校が飛騨方面を同じようなスケジュールで実施することも考えられるため、そこでの「密」が少し心配である。

小学校5年生の関研修も、日帰りで行う予定である。

○外国人児童生徒の対応について

→就学前の説明や転入してきた時の対応をする窓口は教育課で行っている。美濃加茂市の「のぞみ教室」や可児市の「ばら教室」のような初期指導を行う施設がないため、日本語が分からなくても、いきなり通常学級で生活することになることがある。「のぞみ教室」に通うことは出来るが、送迎などの問題があり通えていない友達とのコミュニケーションは取れるようになって、学力がなかなか定着しないという問題がある。例えば、1、2年生の学習内容しか分からない子が、4年生の学級に転入しても、分からない状態で授業を受けることになるため、継続して学習支援を行う必要がある。そのため、現在、コミュニティ・スクールの「多文化共生委員会」が中心となり、ボランティアの方々の力を借りて、坂祝小学校の「ともだち教室」において初期指導の時間をとっている状態である。そこに指導の先生が常時いるようにして、初期指導教室と学習支援を合わせた「ともだち教室」を何とか立ち上げていきたいということで、体制を整えるため色々なところで相談しながら進めている。保護者にも日本の生活を理解していただくために、町として、企画課が文化庁の指定を受け、可児市のフレビアの協力も得ながら、ボランティアや指導者の養成講座を行っている。また、ボランティアとして活躍いただいている方が「すまいるひろば」という活動を月1回行ってみえ、日本の生活に慣れ日本語を学ぶことが出来るように、子どもだけでなく保護者にも働きかけて下さっている。

○校舎等の建て替えについて

→校舎の建て替えのための基金を作るにしても、どんな物を何処に造るのか、ある程度具体的な計画がないと、いくら貯めていけばよいかははっきりしてこない。現在、他の施設も含めて、町全体として、建て替えが必要な施設と長寿命化で補修しながら進める施設とを診断し、今後の計画を立てているところである。この計画が立ったところで見通しをもって進めていく予定である。

町民プールについては、町内の利用者が2割程で、修繕しながら継続しても毎年3千万円程かかる。今後については、現在、民間の活用も視野に入れながら検討しているところである。当然、町として赤字経営とならないよう、最低でもトントンでやっていただける活用方法、それが無理ならプール以外の活用方法の2本立てで考えていく。

○タブレットについて

→タブレットは、今のところ貸し出す予定はないが、今後貸し出すことも考えていく必要はある。デジタルドリルのeライブラリを入れることで、学校の先生は、どの子がどこまで進めることができているかを把握し

たり、こういった問題を間違えているか等を把握出来たりする。個だけでなく、学級全体の傾向も把握出来る。また、間違えたところや理解出来ていないところは、再チャレンジ出来たりもする。今後、教科書もデジタル化となり、家庭に持って帰れば、タブレットで調べたり、宿題をしたりすることが出来るようになるであろう。

その他

- ・当面する教育関係行事諸行事について
- ・その他

○子育て拠点施設について

→新しく出来る子育て拠点施設は、基本的に現在の「つくんこ教室」と「アンブレラ」が行っている行事等を行うことを考えている。現在、コミュニティセンターで出来ない活動は、中央公民館やサンライフで行っているが、それらをここで集約して行うために、多目的ホールも備えた。ただ、今後、世代交流や多文化共生の視点等から、交流の場として出来る事を考えていくことが出来ればよい。

○夏季バスの運行について

→バスが運行しなかった地区では、善意で送迎を行ってくださった方がみえた。一つ心配なのは、もし事故が起こった時に責任の取りようがない点である。そこは注意喚起が必要である。

来年度も運行の要望はあるかと思うが、今年は、新型コロナウイルス感染症の関係で夏休みの期間が短くなり、熱中症対策として特別な措置であった。自分たちが子どもの頃と比べると暑さが尋常ではないが、「歩くことによって鍛えられる」ということも、大切にしていかななくてはいけない。

閉会 午前11時25分